

●西川副まちづくり協議会、歴史・文化部会江原道郎部会長外参加15名（歴史文化部会員と西川副校区自治会長）は、令和8年3月19日(木)AM8:30～、西公民館を出発し、長崎歴史文化博物館への歴史探訪と今話題のジャパネットスタジアムへと見学をしてきました。

●長崎の歴史について、『キリスト教の伝来とともに開かれた長崎の町は、鎖国時代、海外との交流が許された「貿易の地」として栄え、海外文化や学問を全国へ伝える流行発信地でした。』と歴史文化博物館ボランティアガイド・おいまつ様から説明の後、ゾーンの中へと入って行きました。

中は、歴史文化展示ゾーンと長崎奉行所ゾーンと二つのゾーンがあります。

歴史文化展示ゾーンは、1～8までの区間が紹介されていました。

1コーナーの西洋との出会い～南蛮貿易とキリスト教～区間では、天草一騎の舞台原城からの出土品などの展示と「南蛮人来朝の図」が目を引きました。3コーナーの長崎貿易～唐船、オランダ船と行き交う商品～区間では、船底の積み荷や貿易品の数々を目で確認でき、すごいなあと思いました。4コーナーの中国との交流～唐寺と唐人屋敷～区間では、唐人屋敷の模型に皆、見入っていました。7コーナーのオランダとの交流～出島と蘭学～区間では、オランダ通詞の仕事や実物大の資料も確認できました。8コーナーの南蛮人来朝の図近代化の魁・長崎～長崎発、西洋の知と技～区間では、上野彦馬撮影局の再現展示で、江原部会長が、実際に体感され『坂本龍馬』と共に映像に写られました。



ガイドのおいまつ様



南蛮人来朝の図



唐人屋敷の模型



長崎貿易の積荷等



長崎奉行所ゾーン

オランダとの交流



上野彦馬撮影局の再現(江原部会長)

●長崎奉行所ゾーン

長崎は、文禄元年（1592年）、豊臣秀吉により直轄領（天領）となり、鍋島直茂（肥前国佐賀城主）を長崎代官とし、本博多町（現：万才町）に長崎奉行所が設置され、初代の長崎奉行に寺沢志摩守広高（肥前唐津城主）が任命とのことで、佐賀と長崎の関わりを感じました。

長崎奉行所は、維新前までの275年間に124人が任じられており、127代を数え、歴代長崎奉行を紹介されています。84代遠山景晋（遠山の金さんの父）も長崎で1年を過ごされました。奉行の年収が相当高かったため、当時、奉行になりたがったとのことでした。



長崎奉行所お白洲のある場所



ジャパネットスタジアム

●長崎歴史文化博物館の探訪も「あっという間。」で、まだまだ、見たりなかったけど、次の食事会場「寶來軒」へと向かいました。

昼食は、個人負担で、皆が皆、「本場長崎ちゃんぽん」を注文して、美味しくいただきました。

●次は、今話題の「ジャパネットスタジアム」へとまいりました。ちょっと、立ち寄る程度の時間が、駐車場探しと一方通行なため、場所探しに時間がかかり大変でした。

佐賀は駐車場もワと確保もでき、のんびりだなあと、感じました。